



採血のQ&A



Q 血管が出にくいのですが、事前に自分自身でできることはある？

A 寒い時は使い捨てカイロ等を使って、採血する所を温めておくと採血しやすくなります。
(低温やけどには十分ご注意ください。)

Q ご飯を食べてきたけど、採血して大丈夫？

A 採血は基本的には、空腹時に行います。
食事をすると血糖、中性脂肪、インスリンなどの項目に影響します。
食後に採血をした場合は、診察の際に主治医に伝えてください。
(食事の影響がない項目もあります。)

Q 毎回同じ場所から採血して大丈夫？

A 大丈夫です。
ただし、同じ場所で繰り返し採血をすると血管が硬くなり、針が刺さりにくくなる場合があります。
その場合は採血担当者にご相談ください。

Q 点滴を受けるのと同じ腕で、採血して大丈夫？

A 採血した腕に腫れや痛みなどが無ければ、点滴をしても大丈夫です。

Q 造影剤を入れましたが、採血して大丈夫？

A 大丈夫です。

Q どれくらいの頻度で、採血するの？

A 必要なら毎日、入院すると1日で数回ということもあります。
外来で通院している患者さまの場合は、診察ごとに採血をする場合が多いです。
1週間に1回、1カ月に1回、3カ月や半年に1回という具合になります。

Q どれくらいの量を採血するの？

A 10～15mLぐらい採血します。
検査の内容にもよりますが採血管2～3本の場合で、おおよそ大さじ1杯ぐらいの量です。ちなみに
体重 50Kg 以上の人は、400mLまでの献血が安全とされています。献血と比較すると、検査のため
の採血はごくわずかな量ですので、ご安心ください。

Q なぜ何本も採血するの？

A 検査の種類によって、必要な採血管(血液を入れる試験管)が違うからです。

採血管の中には、血液の成分を検査に適した状態に保つための薬が入っています。

その薬は検査の種類によって使い分ける必要があります。そのため、検査の種類が増えると採血本数も増えることになります。

Q 血液は1日にどれくらい造られるの？

A 1日に造られる量は、体重40Kgの人で25mL、80Kgの人では50mLとなります。

血液の量は体重の約1/13です。また赤血球の寿命は約120日で、毎日、血液全体の1/120が新しいものに入れ替わっています。これから計算するとこのような数字になります。

Q 血液が黒い気がするけど…？

A 採血は静脈よりおこないますので、とれた血液は黒っぽく見えます。

血液は肺で酸素を受け取り、赤い動脈血となります。そのあと心臓より全身に送り出され、体中で酸素が使われて黒っぽい静脈血となります。とくに異常なことではありません。

Q 採血した血液はこのあとどうなるの？

A 検体(血液や尿など、患者様から採取した検査材料)専用のエレベーターで、5階の検査室に送られます。

その後、生化学、血液学、内分泌、腫瘍マーカー、免疫学などの検査項目毎に、いろいろな検査機器で検査が行われます。一部の検査は検査センターに外部委託し、病院外で測定しています。

Q 検査結果はどれくらいで出るの？

A 病院内で検査をしている項目は、採血後1時間から1時間半で出ます。

検査結果は出てすぐに、各外来の診察室や各病棟のコンピュータに配信され見ることができ、主治医から結果を聞くことができます。

外部委託の検査項目は、検査の種類によって2日～1週間位かかります。

Q 採血・採尿で何がわかるの？

A 患者様ごとに必要な検査を行います。詳しくは診察の時に主治医にお聞きください。

採血・採尿検査では、各臓器および全身の状態を知る手掛かりが得られます。

さまざまな種類の検査の中から、各々の患者様に必要な項目を医師が選んでいます。

Q お風呂に入っても、大丈夫？

A 大丈夫です。

普段どおりにお風呂に入って、問題ありません。しかし採血した場所を、強くこすったりしないで下さい。また出血してしまう可能性があります。